

グローバル・カフェ×ICES「年末交流イベント」を開催しました

12月20日（金）、ハロウィンイベントでも共催した香川大学異文化交流会（Inter-Cultural Exchange Society（以下、ICES））と共に「年末交流イベント」を開催しました。日本人学生6名、留学生5名、教員3名の計14名が参加しました。

ICES 代表の佐藤さん(法学部・三年)が司会を務め、自己紹介を兼ねたアイスブレイクを参加者全員で行い、イベントが始まりました。その後、3チームに分かれて「英語でタブラゲーム」に挑戦しました。キーワードを説明する人と当てる人に分かれ、説明する人はタブラワードを使わずに、キーワードが何かを説明します。当てる人はキーワードを見ることができないので、説明をヒントに推測しなければなりません。とてもシンプルなルールなのですが、英語で説明となると、難易度が上がるようで、タブラワードが連発され、会場は笑いに包まれました。



続いて「あなたの故郷での年末年始の過ごし方」という題について、参加者同士が交流を行いました。セネガル出身の留学生は、セネガルではアフリカとフランスの文化が融合しているため、イスラム教徒が多数住むにも関わらず、街ではクリスマスツリーやサンタクロースが登場すると話しました。セネガルの公用語であるフランス語で、クリスマスは「Noël(ノエル)」と言い、「ブッシュ ド ノエル(クリスマスの薪)」と呼ばれる、薪や丸太に見立てて作られたケーキを食べるのがクリスマスの定番であると紹介しました。

また本学インターナショナルオフィス講師の呉先生は、中国では旧正月である「春節」が最も重要な年越しイベントで、北部と南部では祝い方が異なると述べました。北部では家族や親族とともに餃子を手作りして食べる、皆で集まっておしゃべりしながらの共同作業を楽しむ、また、邪気を払うという意味を込めて、爆竹、花火を鳴らす風習があると話しました。南部では年末、深夜まで肉料理や魚料理を準備するそうで、その準備を手伝った子どもたちにお年玉が渡されるのですが、これは毎年大晦日の夜に「祟(Sui)」という子供に病気をもたらす鬼が子どもたちを脅しに来るという言い伝えがあり、お年玉に入っている硬貨の音で「祟」を追い払うため、大晦日にはお年玉を枕元に置いておくようになった、南部ではお年玉は子どもの1年間の健康を祈るために、送られるものであると話されました。

今年最後のイベントとなりましたが、ICES の協力により学生同士の距離がぐっと縮まる素敵なイベントとなりました。

